

グリーンニュース 第3号

発行年月日 平成11年2月5日

発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 新井 榮一

平成10年度環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

……研修・情報交換の場を広く……

**グリーンコンシューマー運動を中心に、
環境先進国ドイツを見習い、
ごみの減量化等、意識改革を推進しよう**

……平成11年 環境アドバイザー 活動推進目標……

◎ 日本とドイツごみ比較

	日本	ドイツ	比較
ダイオキシン発生量(全国年間)	5kg	4g	1千倍
ごみの発生量(一人一週間)	41.9L	11.7L	4倍
ごみの内プラスチック類発生量	27.6L	2.5L	10倍

	ドイツでは
食品用トレイ	ほとんど使われていない
びん類	デポジット制度定着
かん類	飲料水用缶ビール、缶ジュースなし
ポリ袋	スーパーマーケットではポリ袋は有料

上毛新聞(平成11年1月6日)
NHKクローズアップ現代
(平成11年1月11日)
を参考にしました。

**この大きな差の要因を
真剣に考えましょう。**

◎ 講演会の実施

日時 平成11年2月13日(土) 13:30~16:00
場所 群馬県大渡町庁舎1階大ホール
テーマ ドイツ及びドイツ人から見た日本の環境問題
講師 小林ドリス先生、小林ユリア先生

県情報コーナー

リサイクル情報交換会開催！！

1月26日の火曜日、県の大渡町庁舎1階ホールにおいて「平成10年度リサイクル情報交換会」が開催されました。リサイクル情報交換会は、リサイクル活動を行う各種団体、企業関係者及びリサイクルに興味を持つ県民の方々と行政との意見交換、情報交換を目的に平成6年度より開催されており、今回で5回目となります。本年は、テーマを「リサイクルによるまちづくり」とし、第1部として早稲田商店会会長安井潤一郎氏より「早稲田のリサイクルとまちづくり」について、また、早稲田大学教授寄本勝美氏より「リサイクルによるまちづくり」について各々基調講演をいただいた後、第2部として講師と参加者の意見交換会を開催致しました。なお、第1部・第2部を通してコーディネーターは環境アドバイザーの片亀光さんをお願い致しました。今回は、紙面の都合上、基調講演の内容は省略し、講師と参加者による意見交換会の概要をご紹介します。

- (A氏) リサイクルは資源回収による他に、自分達で再利用するということがあるが、市民レベルで実施できることはないか。また、散乱ごみの回収等が精神運動に終わっている感があり、法的規制が必要と思われるがどうか。
- (B氏) 知的障害者施設で古紙回収及び再生トイレットペーパーの販売を行っているが販路拡大のアイデアはないか。
- (寄本) リサイクルでは収集に対し、利用の取組の遅れがあるが、改善されつつある。再生紙の利用も進んでおり、白色度の低下も進んでいる。新聞の古紙含有率を改善する技術が開発されたとの情報もあり、やがて需給のバランスがとれると思う。散乱ごみについては、ポイ捨てに対する罰則の強化などの仕組みが必要と思う。また、デポジットについて、自販機について導入するのが良いと思う。
- (安井) 商人は客が買って特にならないものは売ってはいけないうちで思っている。販路拡大については乗りのいい商店会をさがしてみてもどうか。
- (寄本) 再生トイレットペーパーは、かなり普及しており、販路開拓は難しいと思う。ホテルに売り込んでどうか。日本のホテルでは客への配慮から普及が進んでいないが、ドイツなどは高級ホテルでも使っている。
- (C氏) 町では指定ゴミ袋がありスーパーの袋で出せない。また、スーパーで袋不要の場合、割引シールを出したりすると良いと思うが実現しない。
- (寄本) 指定袋については自治体により異なりこれではいけないということはない。マイバックなどでスーパーの袋をなくそうという観点では、レジ袋をゴミ袋として認めると趣旨に反する。ごみをなくす観点ではスーパーの袋は認めないべきで町の方針は理解できる。また、レジの外で袋を買って貰うことによる減量はできる。袋を買わない人にスタンプ等でサービスする方法は効果がないとの調査結果がある。袋のほしい人は箱に5円入れて袋をとるようになるだけで効果ある。また、指定袋はごみ収集所の美化につながる。スーパーの袋を認めると他の雑多な袋がまざり、その点でも難がある。
- (D氏) NHKの番組で日本とドイツのごみ問題の特集があった。日本のごみ量がドイツより多い主な原因は包装材関係である。日本では小売店での購入時に容器包装が多い。ドイツではそういうものが少ない。日本では消費者が買うこととお店がそれに合わせることで、そういう結果になっているらしい。では、消費者がどういふ運動をしたらいいか、商店主としての意見を聞きたい。また、日本でも循環経済法のような法規制が必要ではないか。収集までメーカー責任としない設計からの対策が進まない。中央でその辺を何とかできないか。
- (安井) 環境アドバイザーだから気付いたものと思う。大多数の人は気付かない。我々は都の事業系ごみ有料化の中でリサイクルの取組を始めた。清掃予算を減税する代わりに、家庭系のごみを有料化すれば意識が変化すると思う。そうすれば折込広告等断わるようになる。それには、マルチメディアの進展等も必要だ。包装費は商店の売上げの2.5%位を占めており、削減できたら大きい。簡易包装の方が店も楽、客への還元にもつながる。
- (寄本) ドイツの紹介は盛んだが十分でない。民間事業者の出資でDSD社を設立し、収集容器はDSDで設置している。行政の収集は家庭ごみ有料化で4、5倍多く払われる。企業の責任を言う場合、消費者は何をするかという連携が必要。電池は電気屋に持っていき回収されるが、どれほどの人が特参しているか。ドイツの一人当たりゴミ排出量は日本と変わらない。日本も分別収集のモラルが低いわけではない。経済的な仕組みは遅れているが、近年だいぶ進んできた。容器包装リサイクル法、家電リサイクル法など大きな変化だ。費用は消費者負担だが、減らすためメーカーも努力すると思う。同じやるなら規制でなく自発的にやりたいという意見と、法規制がよいという意見がある。政策提案が盛んになる必要がある。議員等によく考えて貰い、選挙の時に争点になるようになるとうい。そういうことがドイツと比較して少ない。DSD方式もリサイクル経費は商品価格に転嫁され消費者は平均1人1日10円負担している。日本は何でも税金でやれという意識を変えないとよくない。
- (安井) 市民運動の人から、商店会の運動は総量抑制が欠けていると言われた。確かにごみをなくそうとは言っていない。ごみをなくそうは売り上げをなくそうと聞こえる。捨てる物をなくそうといっている。結果的には総量抑制の方向につながる。方向性を見極めることが大切だ。
- (寄本) 大学でもエコキャンパス運動をやっており、学内のごみ回収率を高める作戦を練っている。学生にも取り組んで貰おうと考えている。また、各種の団体のリーダーが年1回位討論する機会があつていいと思う。各グル

地域ニュース

【桐生ブロック】…桐生市、笠懸町、大間々町、新里村、東村…

◎ 桐生広域清掃センターの見学

桐生ブロックでは、今年度は、ゴミ問題に関連した活動をしていこうということになり、4月に桐生市ほか近隣6ヶ町村のゴミ処理を行っている桐生広域清掃センターを見学しに行きました。

◎ 情報収集

その後、具体的にどのような活動に入ろうか、ということメンバーで話し合い、様々な意見が出されました。まず手始めに、だぶつき状態の古紙に関して何かやってみようということになり、最初に、再生紙の利用、販売、消費についての現状を知るため、大型店にアンケートの協力を求めたり、役場での利用状況を聞いたり、印刷業の方に再生紙100%の場合のコストアップの割合をたずねたり、メンバー同志で情報の交換を行いました。アンケートの協力がうまく得られなかったりして、まだ具体的な活動の成果は現れていません。

何か、よいアドバイスや情報がありましたら提供してください。

☆ 連絡先 桐生市堤町 1-15-8 豊田文子さん TEL 0277-22-8828
勢多郡新里村大久保 677-2 土屋 彰さん TEL 0277-74-3680

【吾妻ブロック】…中之条町、吾妻町、長野原町、東村、他町村は不在…

吾妻郡の面積は、県の四分の一を占めるが、人口は68,000人で、二九分の一、自然は豊かで、温泉、スキー場には恵まれた過疎の地域である。アドバイザーは11名である。各人はそれぞれの地域で、職場で環境問題に取り組んでいる。幼稚園に勤める人は、残飯やゴミ問題に、小学校の先生は、環境保護教育に力を入れている。農業にたずさわる人は、生活雑排水が入る灌漑用水の改善と、対策につとめている。獣医の専門家は、傷病野生動物の治療と保護につとめて成果をあげている。野鳥の会活動にかかわる者は、定期的で一般参加の探鳥会等によって、野鳥保護と啓発活動に努めたり、会報を郡内の学校及び関係機関に配布して、協力を呼びかけている。

広域町村圏のゴミ対策は、焼却施設も整備され、順調に稼働しているが、生活排水施設は不備で、現在整備の為に工事は進行中である。

☆ 連絡先 吾妻郡吾妻町原町 555 増田茂さん TEL 0279-68-3541

【西部ブロック】…高崎市、榛名町、箕郷町、群馬町…

西部ブロックは、高崎市15名、榛名町8名、箕郷町3名、群馬町3名、倉淵村0名の29名で構成され、平成10年度は残念ながら、他ブロックと比較して、低調な活動に終わりましたが、新年を期して、“行動するアドバイザー”として、身近かな問題から始め、小さな輪から大きな輪へと発展していきたいと考えていますので、よろしくご協力をお願い致します。

◎ 平成11年度西部ブロック計画

- 1 ブロック内アドバイザーの横の連携の強化（各町村1～2名世話人のお願い）
- 2 グリーンコンシューマー運動を中心に、他の団体（くらしの会等）との連携を図り、一体化したネットワーク運動の推進
- 3 ゴミの減量化に向けた、ブロック内の情報交換と行政との話し合い

以上三項目を重点課題として取り組んでいきたいと思っています。

☆ 連絡先 高崎市浜尻町 44-14 高梨善久さん TEL&FAX 027-363-5003

トピックス・ことばの解説

プラスチック製品についての考え方

問：一般的に塩化ビニール製品はダイオキシンの発生源となるが、ポリエチレン・ポリプロピレン製品は問題がないと言われます。それは本当でしょうか。また、見分け方があれば教えてください。

答：

1) 単独で燃やした場合には、ポリエチレンやポリプロピレンからダイオキシンは発生しません。なぜなら、それらは炭素(C)・水素(H)・酸素(O)だけでできており、燃やすと二酸化炭素と水になるからです。

しかし、現実のゴミ焼却は様々なものが混合して燃やされるため、塩素やベンゼン核が存在する条件下ではダイオキシンの材料になりうるかもしれません。

2) 合宿研修で講演していただいた緑川先生の資料によれば、プラスチックは安全性の点で問題の少ない順に以下の4つの段階に分類されるとのことです。

第1段階：炭素(C)・水素(H)・酸素(O)でできているもの
ポリエチレン、ポリプロピレン

第2段階：第1段階に加えてベンゼン核をもっているもの

ペット(ポリエチレンテレフタレート)、ポリスチレン、フェノール樹脂

第3段階：第2段階に窒素(N)・リン(P)・硫黄(S)が加わったもの

AS樹脂、ABS樹脂

第4段階：第3段階にさらに塩素(Cl)・臭素(Br)・フッ素(F)が加わったもの

ポリ塩化ビニール、ポリ塩化ビニリデン

3) 食品用ラップや台所用品など購入の際には、表示をよく確かめて問題の少ないものを選ぶようにしましょう。また、ガラス製の保存容器を使うことでラップの使用を減らすとか、余るほど作りすぎないなどの心がけも大切です。

4) 表示がないものについて、塩化ビニールであるか否かを見分ける方法としては、熱した銅線に調べたいプラスチックをつけて火にかけ、青緑色の鮮やかな炎が出たら塩素系という識別法があるそうですが、ガスを吸い込むおそれもあり、あまりおすすめできません。

むしろ、基本姿勢として、木製品・金属・陶磁器などの代替品があるものは、できる限りプラスチック製品の購入・使用を控えることが大事ではないでしょうか。

5) 最近では、「グリーンプラ」と呼ばれる生分解性プラスチック(トウモロコシなどのでんぷんが原料)の研究開発も進んでいます。

(文責：片亀 光)

質問は、片亀 光さん TEL0270-65-1975 までお願いします。